

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ 去った一週間も主の平安の中で心も、体も守れましたか。本日は24年度向けての信徒総会が行なわれる主日であります。昨年23年度の一年間、神のご栄光のため、主の教会のため、小さな命や一人の尊い魂への愛と救いの為、愛の労苦を惜しまなかったクリスチャンプレイズチャーチの教会の信仰の家族の皆様は心から感謝を申し上げます。そして、23年度今日まで、心を尽くし、力を尽くしてともにキリストの愛を持って献身的に仕え続け、キリストの御体なる教会に労して下さった教会の役員(福井雅巳・箕輪勇気執事・川副浩太先生)、会計(福井雅巳・熊谷加代子執事)、江南牧場(久富弥生牧者)・ひかり牧場(箕輪牧者夫婦)・あおひら牧場(棚橋牧者夫婦)・美ら牧場(福井牧者夫婦)・ドイツの三重牧場(川副牧者夫婦)、アワナの全先生たち19人の方々(コマンダー棚橋真之介執事はじめ、カビーズ: 李淑英先生・桶本静枝・金沢昭子・マルティナ姉・棚橋恩恵執事・小学生部(スパークス&T&T: 福井レイディ執事・セクレタリー久富弥生姉(協力興膳有里姉)・内田啓一兄・金攸勲兄・浅野メイナ姉・石田口サリナ姉・JV: 箕輪勇気執事・熊谷加代子執事・箕輪智絵・奥村マリ姉・奥村雅和兄・ユース: 川副浩太先生)、毎週講壇のお花をいつも飾って下さった浅野メイナ姉妹、トイレなどいつも教会堂の掃除に仕えて下さった福井レイディ執事・興膳有里姉、礼拝の様々なご奉仕に至るまで、教会の信仰の家族みなさんお一人お一人の尊い存在と愛の労苦に頭が下がり、もう一度心から感謝致します！どうか教会のかしらなる主イエスキリストの豊かな恩寵と大いなる天の報いと労いがみなさんとご家族の上に豊かに溢れますように切にお祈り申し上げます！

<1. 教会の存在目的>

本日はもう一度共に聖書が教えて下さっている教会の存在目的と使命、つまり聖書的なふさわしい教会の姿は何なのかともに学びながら、これからともに進むべきクリスチャンプレイズチャーチの姿を聖書の御言葉を通して、共に描きながら歩んで行きたいと願います。今日はその初めの時間として主の教会の存在の目的は何なのか共に考えて見たいと願っております。

愛するみなさん！ みなさんは教会の存在目的はなんだと思います、教会に通っているでしょうか。

教会で起きている大体の葛藤や意見などの衝突の原因を分析してみると教会が担うべき大切なことが何であるかに対する意見のちがいであることが分かります。たとえば、礼拝とか賛美とか祈りが一番大切だと思っている方々と聖書学びが一番大切だと思っている人々の信仰のスタイルが違うには同然かも知れません。礼拝とか賛美とか祈りが一番だと思っている人は聖書学びを一番に思っている人々に対して、信仰を知的な満足のために利用しているように思うかも知れません。反対に聖書学びを一番に思っている人は礼拝、祈り、賛美とかを一番に思っている人々が信仰の内容はなく信仰の形だけ大切にしているのだと思うかも知れません。

しかし、我々みながかならず覚えなければならないことは教会がやるべき一番の大切なことは我々が決める事ではないという事です。それはすでにイエス様がそれが何かを教えてくださいましたからです。その内容が今日の本文の18-20節の箇所です。もう一度読んでみましょう。この御言葉こそ**教会の存在目的**だと私は思います。

なぜなら、この御言葉はイエス様が天に上られる前の地上で十一人の弟子たちに最後に与えられた遺言的なおことばだからです。イエス様が特別に訓練された11人の弟子を使徒と呼びますが、使徒という意味は“遣わされた人たち”という意味です。ここで使徒の単語は複数(ふくすう)です。単数の時は‘ししん(使臣)’、もしくはししゃ(使者) ‘と言います。彼らの働きはどこに行くにしても福音を伝え、そこで教会を立て、イエス様が命じられたことに従い献身するイエスキリストの弟子たちを生み出し、育てたわけですから、これがまさに教会を立たせて下さった存在目的だと思うのです。

今日の本文19-20節では四つの動詞が出ます。‘行って’、‘弟子としなさい’、‘バプテスマを授け’“彼らを教えなさい”原語の聖書は四つの動詞の中で命令形は‘弟子としなさい’この一つだけで、ほかは分詞(ぶんし)です。つまり、‘あなたがたはわたしの弟子を作りなさい’という命令です。この御言葉の意味はつまり、**教会の存在目的はイエス様の弟子を作る事**だと言う意味です。イエス様が願っておられる教会となるためには**イエス様の弟子を作り出さなければならない**という意味です。

どんなにたくさんの奉仕や長い礼拝生活、宣教と伝道を熱心にやるにしても弟子を生み出さなければ教会はその存在目的を失ってしまうのです。

愛する信仰の家族のみなさん！ 弟子とはどんな人ですか？ 弟子は学ぶ人です。弟子になるためにはまず学ぶものであり、学んで身につけたものはまたかならず、ほかの人にも受け継がせるものであります。何を学び、何を受け継がせるのですか？ イエス様の生き方です。イエス様の人格を似て、その方の生き方を見本にしていく事をイエス様に似ていくと言います。これがまさにイエス様の弟子になっていく事です。時間が経ちながらイエス様に似ていく人、イエス様のように生きる人が増えていく時、その教会は教会の存在目的の通りに生きているのだと言えるでしょう。

今日の聖書本文でイエス様は弟子を生み出していく教会になる具体的方法を教えてくださいました。

弟子を生み出す教会となるためにはまず、**行かなければなりません**。ところが、普段、我々は人々が来る事を待っています。すでに、ほかの教会に通っている人を誘って我々の教会に座らせる事は伝道ではありません。神様を知らない人、神様を信じない人々、そして神を必要とされる人々をのために私たちの方から行く事こそが伝道の一步です。5年もしくは7年間ほど教会に通うと未信者の友たちがみんないなくなるという統計を読んだことがあります。これは本当に悲しい事です。我々は行

かなければなりません。自分と悪い事をしていた人々にも行かなければなりません。信じない友達を覚えてその友のために行かなければなりません。

その次はバプテスマを授けなさいと言われました。 未信者の友達とどんなに親しくてもそれで終わってしまうと何の意味がありません。彼らにイエスキリストを紹介し、受け入れ、バプテスマを受けるようにしなければなりません。何の問題もなさそうに見える人々も実は罪の罪責感の呵責で苦しんでいる人々、様々な問題に抱えている人々、寂しさや孤独感の中で、むなしく生きている人々がたくさんいます。我々はその方々にイエス様を紹介する愛の負目と責任があります。イエスキリストだけが人間の罪の問題を、死の問題を、人生の寂しさの問題と虚しさを、心の深い傷を悩んでいる魂にまことの解決と救いを与えてくださるからです。

バプテスマを授けた後はイエス様から教えられたすべてを守るように教えなさいと命じられました。

知識的な聖書学びではなく、イエス様を信じて、古い自分の以前の価値観が変わって、イエス様の似姿に変えられる弟子を作る聖書の学びをしなければなりません。イエス様の似姿に変えられるようにと教える聖書学びを持続的にしなければなりません。

多くの教会は組織も良く出来ていて、良いプログラムもたくさんあって忙しく回っているのに、いざイエス様の弟子たちは生み出されない難しさをよく聞きます。それはイエス様が提示した弟子を作る方法論にだけ偏って、実際イエス様が弟子達に教室でなく、現場で、知識的な学びではなく、実際イエスキリストの行いと生き様そのままを見せながら、自然に学ばされ、訓練されて行ったように、我々も行き方や実際の行いを見せて、それを見て学ばされ、御言葉に従う祝福と喜びを教えなければなりません。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん!イエス様は信じる我々に使命を与えてくださいました。わたしの弟子としなさいという使命です。我々は主の教会の存在目的をたしかに分かってその目的に向かって一緒に行こうではありませんか。我々がイエス様の弟子となってイエス様に似ていく事をどうやって分かりますか。

それを分かる方法は簡単です。自分たちの生活において癒しと愛の御業が起きているのを見れば分かります。我々はだいたい心に深い傷と寂しさを感じて生きています。しかし我々は自分の傷に集中している間は治療ができません。傷つけられた心を他の人に吐き出したり、もしくは神様に祈ればすこしはすっきりされます。しかし、完全な癒しにはなりません。イエス様に似ていく時、ようやくその傷は癒されていくのです。

イエス様の生き方を見ると、イエス様の人格の中で一番目立ったのは愛の仕えと赦しです。 罪のない方が捕まえられて十字架で死なれていくときイエス様はなんとと言われましたか? “わたしの敵に仕返しして下さい。”と言われませんでした。ルカの福音書23章34節をみると、“父よ。彼らを御赦しください。彼らは自分たちが何をしているのかわかりません”これがまさにイエス様の姿でした。イエス様のように赦す人になっていく時、イエス様のように愛をもって仕える者になるとき、いつの間にか自分の中で癒しの御業が起こります。そしてその姿を見て救われるべき人は変わり始めます。教会は病院でなければなりません。神様の御前で罪人である我々が罪赦され、癒しと回復を経験し、神様の救いを体験していくところ、主の教会なるクリスチャンプレイズチャーチとなりますように仕えあっていきますように主の御名によって祝福します。

昨年2018年度教会の標語は『ホ-ムのような教会・教会のようなホ-ム』という標題でした。18年度にはクリスチャンプレイズチャーチがさらに神の温かい愛のホ-ムのような教会となり、各みなさんの家庭が教会のように神の恵みと愛が注がれ、実際生きておられ、共におられる神を体験することが出来るホ-ムとなるために、具体的に3つの実践事項を目指して来ました。

①日々聖書通して神と人を愛し仕える生き様を身につけて行くキリスト者を目指す事

(申命記6:5・10:12-16・マタイ22:36-40・マルコ12:29-33)、

②教会の共同礼拝と祈りを通して共にキリストの愛を分かち合う事を献身し決断する事

(使徒の働き2:42-47・1ヨハネ4:4-13・19-21)

③みなさんの家々で愛の交わりと仕えの実践を通して全ての関係において神の回復と癒しを体験する事(牧場:エペソ5章・6:6-7・ローマ16:2-4)でした。

そうなる為に、我々の教会では3つの軸が教会の中でしっかり位置づけられるように、目指して来た一年だったと思います。主日共同礼拝を通して神の恵みと臨在の中でキリストを知らなかったVIPの方々がキリストを信じる決心し、すでに信じている我々は生きておられる神の御前で神の御言葉通りキリストの弟子として再献身を捧げる事が出来るように目指します。そして、各牧場を通して、神の愛に触れられ、本当の神の家族の姿を体験し、VIPの方はキリストの愛と神の力をともに体験し、信じるようになり、信じている我々はキリストの弟子として人生の生き方が変わって行く事になって来ています。そして、命の道の学びなどを通して、VIPの方々が聖書を正しく理解され、信じる我々は御言葉通り新たな人生の生き方を体験する事が出来るように励んで来た一年だったと信じます。

この3つの軸がちゃんとバランス良く動き、調和され、教会の3本柱として定着して行く事のように本当に教会のようなホーム、ホームのような教会として一年間さらに形成され、定着されて来た信じ、神様に感謝を捧げ、尊い献身し仕えて来て下さったみなさんにも心から感謝致します。そして、この3つの軸は年度が変わっても、変わりません。続けてクリスチャンプレイズチャーチの揺るがない土台として位置づけられ、さらに定着されるよう牧師である私から一番下でまず、仕えて行く者になりたいたいと一層願いつつ、祈っておりますので、引き続きみなさんもこの3つの軸、3本柱を覚え祈って下されれば幸いです。

<2. イエス様が本来望んでおられた本来の教会の姿:家族共同体>

今年2019年度教会標語は『神が喜ばれる信仰と愛の家族共同体』です。そして、3つ具体的な実践事項を立てました。

♥①聖書と祈りで神の力を共に体験する家族共同体

(申命記6:4-9・ルカ8:21・使徒の働き2:42-47・6:712:24・マタイ6:6-13・マルコ1:35・9:29)

♥②イエス・キリストの愛で共に仕え支え合う家族共同体

(ヨハネ13・第一コリント13・1ヨハネ4:7-21・エペソ5・マタイ22:36-40)

♥③聖霊の豊かな実で共に分かち合う家族共同体

(カラテヤ5:22-23・ローマ7:5・エペソ5:9-11・コロサイ1:10-12・ヨハネ15:1-8)

敬愛するクリスチャンプレイズ信仰の家族のみなさん！私には一つのビジョンと夢があります。それは今年21年目を迎え神によって建てられたこのクリスチャンプレイズチャーチが新約聖書に書いてある通り本来の教会の姿として回復され、立てられて行くときこそ、実際に新約聖書の教会の時のように真のキリストの弟子が生まれ出され、育まれていくことになることと信じております。できれば新約に表された教会の姿に近づくように努力して来ているところで、たどり着いたのは、信仰と愛の家族共同体の姿であり、

それが家の教会の姿である事が分かりました。

主イエス様が望んでおられた教会共同体は(家族共同体)でした。(マタイの福音書12章49-50節)

「それから、イエスは手を弟子たちのほうに差し伸べて言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。50天におられるわたしの父のみこころを行なう者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」

*使徒の働き2章46-47節「そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、47神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」

*使徒の働き10:22・24

「すると彼らはこう言った。「百人隊長コルネリオという正しい人で、神を恐れかしこみ、ユダヤの全国民に評判の良い人が、あなたを自分の家にお招きして、あなたからお話を聞くように、聖なる御使いによって示されました。24その翌日、彼らはカイザリヤに着いた。コルネリオは、親族や親しい友人たちを呼び集め、彼らを待っていた。」

以後立てられた初代の教会たちの姿は家の教会の姿でした。

*ローマにある教会(ローマ人への手紙16章3・5・14-15節)

「キリストイエスにあって私の同労者であるプリスカとアクラによろしく伝えてください。5またその家の教会によろしく伝えてください。14アスクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマスおよびその人たちといっしょにいる兄弟たちによろしく。

15 フィロロゴとユリヤ、ネレオとその姉妹、オルンパおよびその人たちといっしょにいるすべての聖徒たちによろしく。」

*ラオデキヤにある教会(コロサイ人への手紙4章15節)

「どうか、ラオデキヤの兄弟たちに、またヌンパとその家にある教会に、よろしく言ってください。」

*ピレモンの家の教会(ピレモン1章2節)

「姉妹アピヤ、私たちの戦友アルキボ、ならびにあなたの家にある教会へ。」

このように聖書に書かれていたエルサレム教会(使徒2:46-47)ローマ教会(ローマ書16:3, 5, 14, 15)、ラオデキヤ教会(コロサイ4:15)、ピレモンの家の教会(ピレモン1:2)、パウロが設立した諸教会の中で新約聖書に最も詳細に紹介されている教会はコリント教会もコリント教会を中心として家の教会の姿であった事が分かります。実はアクラとプリスカという夫婦の家がコリントの初の家の教会でした。エペソでも家で信仰の家族共同体として家の教会としての集いを持っていました(使徒の働き18:18-19)。コリントだけでもガイオの家(ローマ16:2; Iコリント1:14)では明確に一つのグループが集っていたし、また会堂管理者クリスポの家(使徒の働き18:8; Iコリント1:14)、ステパノの家(Iコリント1:16; 16:15-16)、そしてエラストの家(ローマ16:23)にも家の教会の集っていたはずで。

そして、ローマ書16章の長い挨拶目録を見ると、私たちはローマに少なくとも三つの家の教会が存在したことが分かる。プリスカとアクラの家で集う家の教会(ローマ16:3, 5)、アスクリトとフレゴンとヘルメスとパトロバとヘルマス、その人たちといっしょにいる兄弟たちの教会(ローマ16:14)、そして、フィロロゴとユリヤとネレオとその姉妹とオルンパそしてその人たちと一緒に神の家族として共に集まっていた家の教会でした(ローマ16:15, 10)。聖書を研究しながら一つ一つの都市で数多くの家族共同体として家の教会が存在したなら、諸教会は互いに愛を持って献身的に支え合い、仕え合っていたことが分かりました。まとめると、

(1)イエス様が望んでおられた教会共同体は家族共同体でした。(マタイ12:49-50)

(2)エルサレム教会が家の教会として形成されていました。(使徒2:46-47)

(3)使徒パウロも教会員が家族のような関係であることを望んでいました。(第一テモテ5:1-2)

しかし、ながら、教会の歴史によると、本来主が望んでおられた教会の姿であった家の教会姿を持って4世紀まで祝福され、続いていた信仰の家族共同体が変質されたのは、ところがローマのコンスタンティヌス皇帝によってキリスト教が公認され(313年)た以後に、バシリカ(basilica)という長方形の巨大な教会堂が建てられるようになってから、家の教会、神の家族共同体の姿はほとんど跡をくらましてしまいます。バシリカという教会建物の登場は色んな側面で教会に対する理解(教会の建物が神聖な教会かのように思い始める)とキリスト者の生き方に深刻な質的变化をもたらしてしまったわけであります。

大型教会の中で本来の教会の家族共同体性と愛の交わりと関係のを喪失し、大多数の聖徒たちが礼拝の受動的な観覧者として転落してしまい、礼拝も儀式的になってしまい、礼拝と生き方が分離になってしまいました。信徒が持っている賜物を生かせず、全て一人の教職者に頼りすぎてしまいました。大人数が集っている教会こそ、神様が喜ばれ、すばらしい教会かのように本来の家族共同体を望んでおられたイエスキリストの夢から外れてしまい今日に至っています。実は我らも以前このような考え方を持っていたのではないのでしょうか。大きな教会の建物、大勢の人がいるか、少ないかによってそれが本当の教会かのように判断してしまった教会観だったのではないのでしょうか。

しかし、本来聖書を通してイエスキリストが御体として望んでおられた教会の姿は、神を信じる信仰とその愛を持って分ち合い、仕え合う家族共同体であります。結局のところ、我らの教会の姿、家の教会が目指している姿が何なのか考えた時、描かれ浮かべられた言葉が神様が喜ばれる信仰と愛の家族共同体！という言葉でした。これこそ、聖書を通してイエスキリストが望んでおられた本来の教会の姿、そして、初代の教会の姿が信仰の家族共同体であったからです。

昨年も家の教会を通して、信仰と愛の共同体として励んで来ましたが、2019年さらに、我らのクリスチャンプレイズチャーチがこの時代、神様が本当に望んでおられ、喜ばれる家族共同体として建てられ、祝福されて行きますように心からお祈り申し上げます。

敬愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！教会が神の愛を人たちに分かち合い、仕え合っていく神の家族共同体として、私は家の教会の働きは欠かせない存在であり、かならず有益になると信じます。家の教会の働きは同時に各家庭で夫婦、親子の関係の中でも神の愛を分かち合い、協力し合い、仕える真の信仰の姿を通して家族の中でまず神の愛を体験する機会となり、信仰の継承に繋がる祝福をいただける道であるとも確信します。そしてまだ信仰のない愛する家族たちや隣人たちの尊い魂の救いのためにも、定期的、継続的にキリストの愛を持って交わり、仕えられる聖書通りの家の教会はこれから日本の教会や社会にますます必要になって行くと確信しております。

今の日本の社会現象と家庭はますます時代が変わって、家族、家庭の正機能が麻痺され、歪曲され崩れて行く時代となっています。特にクリスチャンやクリスチャンの家庭関係なく、益々一人暮らし、孤独死、夫婦の離婚、子どもの脱線の問題、限られ薄くなって行く人間関係と緒問題、孤食(子ども1/6人)など増えて行く一方で、今は模範的な家族、自分のありのままの姿を認め、受け入れてくれる家庭、信頼出来る温かい人間関係、家族的な真の交わり、食事、話し合いなどの安心出来る居場所を切実に求めています。それに一番ふさわしい提案は家の教会の働きだと確信しています。これは方法論とか、プログラムとしてではなく、教会成長論でもありません。もともと地上始めての初代教会の姿(ローマ16:3, 5, 14-15)であり、信仰共同体や神の家族共同体の姿であるでしょう。

教会家族が牧者や協力の手となる事により、祈り(救いの為)、姿勢(愛の仕え)、関心(牧員家族・他人中心)、献身(魂の救いのためなら)、愛の交わりと関係(家族のように深い信頼と助け合い・分ち合いが出来る)が変わり、さらに、夫婦関係が守られ、子どもたちも、親子の関係も祝福され、神の愛の真の分かち合いと仕えを体験されます。このように家の教会の愛の働きと献身を通して一時的ではなく、毎週持続的な家の教会牧場の集い(愛の交わりと祈りの答え)を通して、周りの人々にもその神の愛を体験させ回復され、その尊い魂がキリストを信じ救われる神の御業を共に体験出来る事により、本当に神が喜ばれる信仰と愛の家族共同体とますますなっていくと信じております。どうかみなさんも是非見逃す方が一人もなく、共に参加し、愛のご協力とお祈りを宜しくお願い致します。

どうか敬愛し、親愛なるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の全家族がそのため2024年度にも教会で、家の教会牧場で共に参加し、互いに励まし合い、慰め合い、仕え合いながら、生きておられる神の愛と力を実際豊かに体験していく神の信仰と愛の家族共同体と一層なりますように祝福を切にお祈り申し上げます。アーメン!